

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和4年5月30日（月）

2 確認箇所

- (1) MP-8近傍敷地境界付近連続ダストモニタ（A系・B系）
- (2) F1タンクエリア

3 確認項目

- (1) 降雨による冠水で、MP-8近傍敷地境界付近連続ダストモニタ（A系・B系）が停止した事象の状況
- (2) F1タンクエリアのフランジタンクからの水の漏えい等状況（前回（令和4年4月11日）の再確認）

4 確認結果の概要

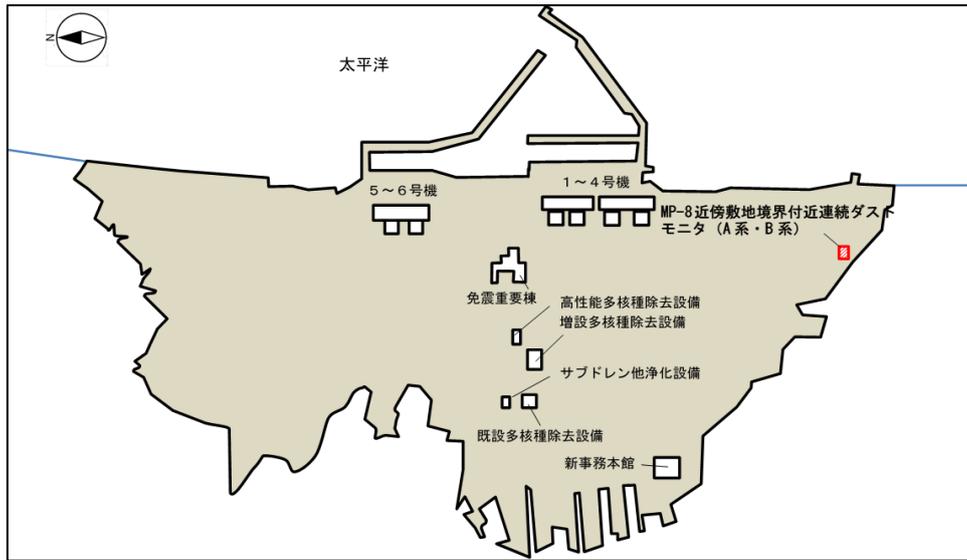
- (1) 降雨による冠水でMP-8近傍敷地境界付近連続ダストモニタ（A系・B系）が停止した事象の状況

令和4年5月27日午後1時35分頃、東京電力は、MP-8近傍敷地境界付近連続ダストモニタ（A系・B系）（以下「ダストモニタ」という。）に異常が発生し、監視ができない状況を確認。

原因は、降雨により局舎内へ雨水が浸入し、機器が冠水したことによる停電と推定された。

近傍にあるMP-8（モニタリングポストNO.8）も含め、現在のダストモニタの状況を確認し、併せて東京電力社員より説明を受けた。（図1）

- ・現地確認実施時においては、ダストモニタはA系、B系ともに復旧し、正常稼働していた。（写真1）
- ・MP-8及びダストモニタの局舎周辺（（写真2）において、向かって左の局舎内にダストモニタ、中央の局舎内にモニタリングポストの制御盤、右側の遮蔽板の内側に電離箱及びNaIシンチレーションの検出器が設置されている。）は、現地確認当時、すでに水は引いていたが、周辺地面や局舎内等に冠水の影響と思われる泥が付着していた。
- ・東京電力によると、ダストモニタが停止した原因は、局舎周辺に設置している排水マス（写真3）に豪雨でごみなどが流入・閉塞したことにより周辺が冠水、その水が局舎内へ流入しダストモニタのポンプもしくは接続していたUPSを停電させたもの推定しているとのこと。なお、局舎の床面から約10～20cmの高さで冠水したと推定しているとのこと。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
ダストモニタ (A系) の設置状況



(写真1-2)
ダストモニタ (B系) の設置状況



(写真2)

MP-8及びMP-8近傍敷地境界付近連続ダストモニタ（A系・B系）の局舎の状況



(写真3)

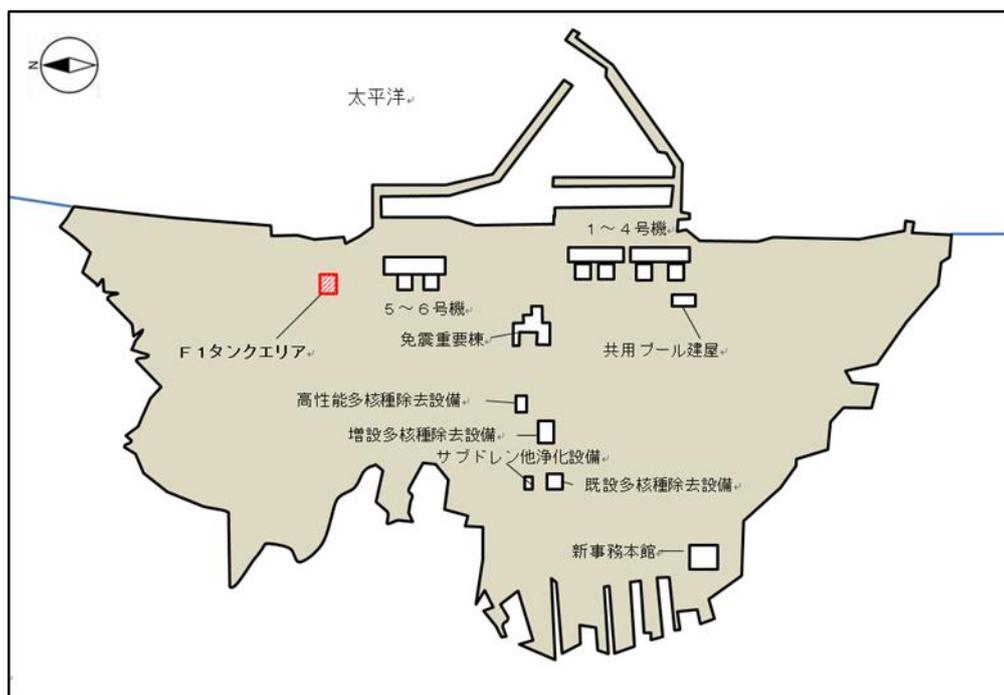
局舎正面側にある側溝と排水マス（※赤矢印は水の流れの方向を示す。）

(2) F1タンクエリアのフランジタンクからの水の漏えい等の状況

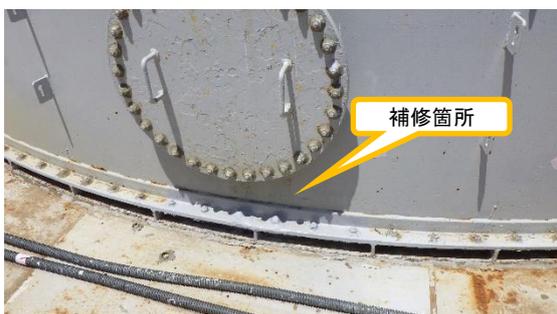
令和4年4月11日の現地確認において、5基のタンク（I2、I3、J3、J4及びJ6）において、水が滴下もしくは漏えいしているとみられる箇所を確認、また、同年4月13日に、東京電力の社員が1基のタンク（J2）において、水が滴下しているとみられる箇所を確認した。

東京電力は、当該漏えい等箇所について止水材で補修するとのことであったので、その対応状況を確認した。（前回確認：[令和4年4月11日](#)）（図2）

- ・前回漏えいが確認された6基のタンク（I2、I3、J2、J3、J4及びJ6）を確認したが、前回見られたような水滴の漏えいは確認されなかった。
- ・東京電力は、当該漏えい箇所について止水材で補修するとのことであったが、その補修されている状況が確認された。（写真4、5）
- ・前回漏えいが確認された6基のタンク以外のF1エリアのタンクの外観を目視確認したが、水の漏えい等は確認されなかった。



(図2) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真4)
I 2タンクの水の滴下を確認した箇所の止水材による補修の状況の例
(タンクの南東側)



(写真5)
I 3タンクの水の滴下を確認した箇所の止水材による補修の状況の例
(タンクの西側)

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。